

JA女性組織 寸劇台本

「みんなが主役 わたしたちのJA自己改革」

企画制作・家の光協会

脚本協力・伊藤敬市

協力・JA全国女性組織協議会

この寸劇台本もとに、各JA女性組織でアレンジして、寸劇にお取り組みください。

【登場人物】

Aさん(協同マンA)

六十代女性。専業農家。家族経営で子どもが農業を継ぐ。JAきずなの女性部長兼理事。落ち着いたりリーダー的存在。組合長にも自分の意見をはっきりと言わしつかりした女性。JAの新しい特産品である「ハニートマト」の栽培をしながら、加工品の商品開発をめざす。

Bさん(協同マンB)

五十代女性。兼業農家に嫁ぎ、現在は介護や仕事に追われる。夫は勤めに出ているが、そろそろ定年を迎える。夫が定年後、稲作からハニートマトの栽培に切り替えようと検討中だが、まだ踏みきれていない。少しおっちょこちょいな人。冒頭、居眠りをし、夢を見る。

Cさん(協同マンC)

三十代女性。子育て世代の非農家。夫は勤めに出ていて、食に関心を持つ。子どもは幼稚園児。フレッシュミズに加入したばかりで、准組合員ではない。

Dさん

三十代女性。Cさんの同級生。都会のデザイン事務所の元経営者。事業失敗のため地元に戻ってきて、料理教室に参加。新自由主義的な考えをもち、JAにやや否定的。

JA組合長

六十代男性。温厚な人。女性組織の活動に理解がある。長年、地元で農業を営む。この寸劇で解説的役割を果たす。口グセは「女性に見放されたJAに未来はない」。

JA職員

二十代女性。女性部担当。明るくてキパキした人。

協同マン（三人）

Bさんの夢の中の住人。自分たちの土地で助け合いながら農業を営む（三人の協同マンは、Aさん、Bさん、Cさんが兼務する）。

競争マン

Bさんの夢の中に現れて、協同マンを自由競争に引き込む。

1 夢の世界 協同マンVS競争マン

舞台中央に三人の協同マン。舞台後方にナレー

ター（JA職員）が座る。

JA職員 「ここは、近未来の、とある国。協同マンと呼

ばれる人々が平和に暮らしておりました」

協同A 「ぼくたちは、協同マン」

協同B 「みんなで助け合って農業をしているんだ」

協同C 「今日も力を合わせてがんばろう！」

協同マンたち、協力してトマトを収穫をする。

全員 「がんばろう！」

協同A 「いいトマトができたね」

協同C 「君のところのトマトは甘くておいしいね」

協同A 「こんどコツを教えてあげるよ」

協同C 「ありがとう、ぼくもがんばるぞ」

どこからか競争マンが現れる。

競争 「オレは、競争マンだ」

全員 「競争マン？」

競争

「競争・合理化・効率化がモットーの競争マンだ。オレがみんなの畑を買ってやろう。オレの仲間になって言うとおり働けば、今よりもっと稼げるぞ」

協同マンたち、集まって相談をする。

協同 A

「どうしようか」

協同 B

「稼げるっていうなら……」

協同 C

「やってみようか！」

協同マンたち、衣装を脱ぎ捨てて競争マンに変わる。

競争

「よし、今日からみんな競争マンだ。競争、はじめ！」

協同マンたちは競争マンの監督の下で流れ作業に従事する

全員

「競争だ！ 競争だ！」

競争

「稼ぐためにはどんな手を使ってもいいぞ！」

協同 A

「ライバル企業に負けないぞ！」

協同 B

「勝ち組になろう」

協同 C

「もうかることだけ考えよう」

全員

「競争だ！ 競争だ！」

競争マンが笛を吹く。協同マンは作業を止めて
整列する。

競争

「競争マン108号。先月の出来高80点。よ
くやった。来月はさらに目標を高くするぞ」

協同 A

「はい！」

競争

「競争マン107号。」

協同 B

「はい！」

競争

「先月の出来高15点。今年はボーナスなしだ」

協同 B

「働きすぎで体を壊してしまっただです」

競争

「言い訳無用！ さあ、競争・効率化！」

ふたたび単調な作業に従事する協同マン。表情
は暗い。

全員

「効率化。効率化」

協同 C

「つらいなあ」

協同 B

「おかしいなあ」

競争

「うーん、思うように利益が出ないな。よし、この土地は生産性が低いので、わが社はここから撤退する」

協同マンたち、思わず作業の手を止めて驚く。

全員

「エーッ!？」

協同B

「ぼくたちはどうなるんですか？」

競争

「もうかる土地に転勤だ」

協同C

「この土地で農業がしなかったのに」

競争

「嫌ならやめてもらうよ。さあ競争、競争！」

競争マン意気揚々と退場。後を追って協同マン

A・C退場。その場でうなだれる協同マンB。

JA職員

「こうして協同マンはだれもいなくなり、農地は荒地と化したのでした」

舞台はJAきずなの調理室に変わる。中央に作業テーブル。テーブルには調理器具やトマトの盛りだくさんが置かれている。一人の女性（B）がテーブルに突っ伏して居眠りをしている。や

がて女性たち（A・C・D）がトマト料理の入った保存容器を抱えて登場。A、居眠りをしてるBに気づいて声を掛ける。

A 「Bさん、Bさん、起きて起きて」

B 「競争マン！」

A 「競争マン？」

B 「…Aさん？ 夢か、よかった。ごめんね。トマト料理があんまりおいしかったから、食べすぎて、ついウトウトして」

J A職員 「もうBさんったら。さて、みなさん、JAきずなブランドの『ハニートマト』を使った料理はいかがでしたか？ 今日のトマトを提供して下さったAさんから」

A 「トマト一筋、専業農家のAです。女性部長とJAの理事も務めています。やっぱり、うちのトマトは日本一ね」

J A職員 「次は、気持ちよさそうに居眠りしていたBさん」

B 「とっても甘いし料理も最高ね。うちは兼業農家だけど、ぜひ、作ってみたいわ」

J A職員 「子育てママを代表してCさん」

C 「フレッシュミズに入ったばかりのCです。初めての料理教室だったけど本当に楽しかった。

JAにこんなステキな調理施設があるなんて知らなかった」

JA職員 「それからCさんのお友達のDさん」

D 「わたしはたまたま帰ってきていて、ちよつとのぞいてみただけなの」

C 「都会から戻ってきてるっていうから。誘ってよかった」

D 「ところで、JAって、なんなの？」

A・B、驚く。

B 「農協よ、農業協同組合」

A 「わたしたち農家が安心して農産物を生産できるように、しっかり販売して、サポートしてくれるのよ」

C 「農家のための協同組合なのね。」

D 「でも、協同組合って、ダサイ感じ」

どこからか声。

組合長 「そんなことはありません」

堂々たる風格で組合長が登場する。

A・B・JA職員 「組合長！」

組合長 「JAきずなの組合長です。語らせてください、協同組合のすばらしさを。協同組合は、同じ志をもつ組合員が出資、運営、利用し、みんなの幸せを追求しています。一人ではできないこともみんなで力を合わせれば成しとげられる。協同組合の思想と実践は、2016年、ユネスコの無形文化遺産にも登録されたんですよ。」

D 「協同組合が？」

C 「こんな身近に無形文化遺産があったなんて。なんだか、すてきね」

D 「でもJAは、批判されてるわよね。自由競争をじゃまして、農業の成長を妨げてるって。」

『規制なんとか会議』が言ってたわよね」

組合長

「政府の諮問機関である『規制改革推進会議』^{しもん}のことですね。かれらは、農業を成長産業にすることを口実に、JAにいろいろな注文をつけ、JAの解体につながるような、見当違いの意見を出してくるんです。しかし、営利ばかり追求するような競争社会がはびこれば、弱者が生まれ、ひいては地域社会が崩壊してしまう」

A 「だれかが勝てば、必ずだれか負けるのが競争社会だからね。小さな農家や条件のよくない農村は生き残れなくなるわ」

B

「うちみたいな兼業農家はまずダメね」

肩を落とすB。組合長が励ましの言葉を掛ける。

組合長

「しかし、JAは営利企業ではなく協同組合です。JAは小さな農家も大きな農家も、力を合わせて幸せを実現するための組織です」

B

「組合長、頼もしい！」

組合長

「ありがとうございます。もう少し語らせてください」

どこからともなくJA組織を建物にたとえた大きな模型が登場。熱く語り続ける組合長。

組合長

「JAを建物にたとえると、たいせつな基礎の部分が組織。つまり人のつながりで、柱が事業です。営農指導、販売、購買、信用、共済などの事業があります。JAは、こうして総合事業を行うことで、組合員の営農と生活を丸ごとサポートしています」

JA職員

「これにたいして、一般企業は基礎の部分が資本。つまりお金です。この基礎の違いがきわめて重大なことなのです」

A

「わたしたち女性部もこの基礎を担っているのよ。人のつながりを切り離すことは、基礎を揺るがすことになっちゃうの。それから、一部の

事業がなくなることは、建物の柱がなくなることに
なつちやうわね。柱がなくなれば、屋根、つまりJA全体が傾いてしまうわ」

建物の基礎（人のつながり）や柱（事業）が取り除かれる。模型の屋根（JA）が傾き、崩れ落ちてしまう。一同大慌て。

「あつ、倒れる！ JAがないと楽しい活動もできなくなつちやうわ」

建物の模型、退場。組合長は熱弁を続ける。

組合長

「農家や地域を元気にするには、基礎や柱がしっかりしていなければなりません。なによりJAが地域に必要な存在だと、みなさんの心の根づいていかなければならない。そのためにJAは自己改革の実践を進めているところです。同じような言葉で、農協改革がありますが、これは政府が進めようとするもの。一方自己改革は、JAグループがみずから取り組むものなのです」

C 「自己改革？」

聞き慣れない言葉に首をかしげるC。Bが得意げに解説しようとするが――

B 「そうよ、自己改革よ！ 自己改革！ ……でも自己改革ってなにをするの？」

一同ずつこける

3 それぞれのJA自己改革を語る

A 「Bさんったら。自己改革のポイントは、農業者の所得増大と農業生産の拡大よ。たとえば、これ」

A、テーブルに置かれたトマトを示す。

D 「ハニートマト？」

JA職員 「ブランド化を進めて、より付加価値を高めた
り、品質のよい新品種を生産したりすることで
農家の所得アップにつながります。これも、自
己改革の一環です」

B 「じつは夫がもうすぐ定年で、うちでもハニートマトを始めた
いって言うの。でも、トマトはたいへん
でしょ。自信がなくて」

JA職員 「うちには頼もしい営農指導員があるので、栽培技術も任せてください」

A 「仲間が増えて生産拡大になるから、これも自己改革！」

B 「加工品開発にも、挑戦できるわ」

A・B 「これも、自己改革！」

新事業に向けて盛り上がるAとB。

C 「わたしは、野菜作りはできないけれど、なにかお手伝いできるかしら」

A 「それなら、女性部でイモ掘りやみそ造り体験をやっているから、お友達といっしょに参加してみたらどう？」

C 「そうね！ 子どもがそんな体験をすれば、元の野菜を好きになって、きっと農業を応援しなくなるわ」

JA職員

「自己改革の三つめのポイントは地域の活性化。今日の料理教室や、手芸教室、健康教室。こんな活動にみんなが参加することが、地域に活気を生み出し、自己改革につながるのよ」

C 「わたしは組合員じゃないけど、参加できるの？」

A 「もちろん。それに、農家以外のひとも准組合員になることができるの」

B 「Cさんもぜひ准組合員になって、地域の農業を応援してね」

C

「ぜひ！」

Dはなかなか輪に入りきれずにいる。Cが声を掛ける。

C

「Dさんもいっしょにどうぞ？」

D

「わたしはパスかな。こういう集まりは苦手なの」

B

「Dさんは都会で何やってたの？」

D

「まあ、デザイン関係っていうか」

A・B

「すごい！」

B

「なんでこっちに戻ってきたの？」

D

「まあ、ちょっと充電中っていうか」

C

(小声で) 「事務所がつぶれちゃったんだっ

て。」

D

「言わないでよ！」

B

「競争社会は大変だねえ」

D

「わたしは、また都会でチャレンジするんだか

ら」

A

「じゃあ、トマトの加工品ができたらラベルをデザインしてくれない？」

D、思わぬ誘いに戸惑いをみせる。

D 「えっ」

A 「わたしたちには、デザイナーが必要だわ」

Dに期待のまなざしが集まる。

D 「まあ：仕事としてなら！ 素材も味もいいんだから人気商品になるわ」

一同、顔がほころぶ。

組合長 「6次産業化へのチャレンジも生まれそうですね」

A 「みんなががんばりましょう。組合長もよろしくね」

組合長 「任せてください。みなさんがアイデアを出し合って夢を語り合う、対話を通して、事業を進めるのが協同組合です。だから、今日のような対話は自己改革の第一歩なんです」

B 「来週も、みんなが集まって話し合いましょよ」

組合長 「JAはみなさんとともに地域を支えていきます。女性に見放された組織に未来はありません」

4 各女性組織の決意表明

A 「そうよ、地域活性化の大きな力になるのは、女性組織だからね」

組合長 「JAに集まる、それぞれの立場の人たちが、事業や活動に参加・参画する。助け合って、地域でイキイキ輝くことこそ自己改革そのものです。平成三十一年五月までは、政府の農協改革集中推進期間です。この一年間はJAにとって、とても大切なときです。みなさんもJAと対話をしながら、自己改革の後押しをしてください」

C 「もし、地域にJAがなかったら？」

B 「困ることがたくさんあるわ」

A 「でしょう！ JAも組合員もそして女性部も、みんなが主役。みんなががんばらなきゃ！ 成功させましょう！」

全員 「わたしたちの自己改革！」

全員、拳を上げる。少しして、一同礼。寸劇は終了。

女性組織の代表者 「みなさん、寸劇はいかがでしたでしょうか？わたしたちのJA自己改革を、一人一人が、ひとごとではなく自分のこととして実践していくために、分かりやすく寸劇で表現してみました

「JA○○では、○○○○○○○○○○の自己改革に取り組んでいます。わたしたち女性部も○○○○○○○○に取り組んでいきます」

この部分は女性組織ごとにアレンジする。


【終わり】

「JA 自己改革」寸劇実施報告書

～みんなが主役 わたしたちのJA自己改革～

今後の『家の光』記事掲載や事例報告などの参考にさせていただきますので、ご協力をお願いいたします。写真や動画もお寄せください!

報告日：平成 年 月 日

報告者 (組織名・ 代表者名)	都道府県	氏名	
連絡先	TEL :	FAX :	
	E-mail :		
◇「寸劇」はどんな集まりで上演しましたか? (例：女性部総会、家の光大会など)			
◇開催日： 年 月 日 ◇参加者数 人			
◇出演者：JA女性部・フレッシュミズ、JA職員、 その他 ()			
◇アレンジ・工夫したところは?			
◇楽しかった点、苦労した点、周囲の反応など、 「寸劇」に関しての感想を自由にお書きください。			
			
★情報の使用について 【 許可します ・ 許可しません 】 動画や写真等の情報は、JA グループ内の資料として利用させていただくことがあります。誌面やウェブサイト等に掲載や公開をする場合には、事前に相談をさせていただきます。			

担当：家の光協会 記事活用促進部

〒162-8448 東京都新宿区市谷船河原町11

TEL:03-3266-9012 FAX:03-3266-9049